

令和元年度第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議（B班）

会議録

1. 日 時 令和元年7月22（月） 午後2時30分～午後4時
2. 会 場 我孫子市役所 分館1階 大会議室
3. 出席委員 林委員、山岸委員、坂巻委員、山下委員
4. 議 題
 - (1) 今年度の会議の流れについて
 - ・令和元年度我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 年間スケジュール【資料1】
 - (2) 平成30年度地方創生推進交付金の活用における効果検証について
 - ・地方創生推進交付金の活用における効果検証シート【資料2】
 - ・平成31年度地方創生推進交付金の活用【資料3】
 - (3) 平成30年度施策評価について
 - ・我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略施策評価表（平成30年度分）【資料4】
 - (4) その他

○林委員長 改めまして、引き続き進行を務めさせていただきます林でございます。

まず、事務局から宿題というか、本日やってほしい作業というのが2点あって、今見ていただいた資料2にありますところのKPIに向けた達成の取り組みとしてどうだろうかといえますと、各事業別のコメントと、資料2についてもある程度意見交換というのが前段にやっていたかと思います。我が班は、毎年、基本目標3の子育ての関連と4のまちづくりの関連が具体的な施策評価の担当部分になっていまして、後半についてはこちらのほうを意見交換させていただければと思っています。

それでは、一つ一つもう一回確認していきたいと思いますが、最初にKPIのところを見ていただきますと、基本的には、数字を書き込むと－1, 575というのがいきなり出てくるのですが、先ほど事務局のほうに配った資料でアビシルベの月別の内訳を見ていただければと思います。

私も最初、資料の説明を受けたとき、マイナスというのはどういう意味かちょっとわからなかったのですが、情報共有ということですが、意味合いといたしましては、アビシルベの月別

の来訪者数の下から2番目に合計がございませうけれども、29年度と30年度を比較したときに、プラスになっているのかマイナスになっているのかというのが実績値ということで出る形になっていまして、目標としては前年度の4万1,803人より500人下回ったんですが、実績としては4万2,288人といった数値になっているので、全く人が来なかったという意味ではなくて、基本的には4万1,803人前年度来たけれども、今年度は4万2,288人の数字であったと。こういう形での合計になっているというご説明がございました。

また、スポーツボランティアについては、先ほどご説明いただいたとおりですけれども、そのほか親水公園と水の館についても、同じような形の数字の構成上、実績値が目標に対するところの未達成という状況になっているという説明がございました。

数字の見方としては以上でありますので、ご議論いただくときに、そういった数字がKPI②であれば実績値としては4万2,288人いたところ、この書き方の問題としてマイナスになっているところをまずはご理解いただければと思います。その辺の確認、大丈夫でしょうか。

また、こちらの事業自体のつくり方という問題にはなるのですけれども、それぞれのこれから見る交付金対象事業が1、2、3、4とあるわけですが、基本的にこれが全てKPIと直接連動しているということではなくて、大きい方向性としては、これらの事業自体が、1枚目にあります「手賀沼を核とした水辺のにぎわい創出事業」というのが大きい核になっていまして、評価の観点としてはKPIの観点で見たいわけですが、大きな目標値、方向としては、これらの交付金対象事業の目指している方向はどちらかというと、「手賀沼を核とした水辺のにぎわい創出」に寄与しているかどうかということが、評価の一つとして見られるかと思ひます。また、それを数値的な部分に置きかえるとすると、今回の①、②、③というようなKPIになるんだというご説明をいただいておりますので、皆様からもご協議いただくときに、その辺も意識していただきながら、ご意見を頂戴できればと思ひています。

何か議論を進めるに当たって確認しておきたいことはございませうか。

特にないようであれば、一つ一つ交付金対象事業別に少し検討してまいりたいと思ひますけれども、そういった形でもよろしいでしょうか。わかりました。

まず1番については、「地域資源を活用したスポーツ推進事業」は、先ほど話し合ったとおり、交付金を活用しない形で実施しているということで、これは評価対象外ということになりますので、2からまいりたいと思ひます。

手賀沼の親水広場の運営というところについては、取組内容については皆さん見ていただいたとおりです。この事業ともう2本ございまして、次のページになりますが、手賀沼沿いエリアの活用推進ということで、手賀沼の観光拠点の手賀沼親水広場について、ここに掲げられている事業をやっていくという形で、今回2本の事業が実施されております。1つは親水広場のプラネタリウムの管理運営委託費、もう1つは手賀沼公園における備品購入費、ドクターイエローを購入したという話。3点目は、農産物の問題になるのですけれども、品質向上のための生産履歴システムの導入ということで、予定しているシステムは導入できたということですが、現在試運転中なので、効果をはかる部分で効果が出ているかというのは、効果というか運用自体は令和元年度の判断ということになりますので、現状を・・・

あります。

これら3点の交付事業をしたときに、何かお気づきの点はありませんでしょうか。

○山下委員 手賀沼ウォーターサイド整備事業のじゃぶじゃぶ池のリニューアル実施設計ということで、これは設計事業ですか。

○事務局 はい。

○山下委員 その後実際に供用に付されたのが、さっきの話だとことしの7月ですか。

○事務局 そうですね。今週です。

○山下委員 そうすると、実際に事業の本当の効果があらわれるのはそこから先の話ですね。

○事務局 そうですね。はい。

○山下委員 これは費用をかけてこういう設計を行いましたという話ですが、今の段階でこの設計委託の評価をできるかどうか。

○事務局 確かにその点はあるかと思えます。まだ始まったばかりなので、どれくらいのお子さんがというところも、残念ながらちょっとあまりお天気もよろしくないで、夏休みは始まったものの、若干利用者がまだ不透明というところがありますので、委員のおっしゃるとおりではあるかと思えます。

○山下委員 これからなんですね、きっと。

○事務局 これからです。本来であれば、工事の入札等が不調に終わったというので、一番最初の目的では5月のゴールデンウィークを目指していたんです。なので、当然この時点ではこの効果というものはかれるかと思っていたんですが、残念ながらそこが少しずつおられてきて7月にオープンしているので、ちょっとそこが見えづらいところではあるかと思えます。そういう意味であれば、あと何回かあって、夏休みに入りますので、利用状況を含め

てお知らせをした上で、効果があったかどうかというものはかっただくのもいいかなと思います。

○山下委員 30年度の実績を踏まえて効果を見るという話ですか。

○事務局 そうですね。ただ、交付金自体、これが29年度から続いているので、単年度、単年度という市の予算上の都合にはなっていますけれども、この計画の間、交付金を受ける間により効果があるというところで、このKPIも、単年度ではなく増えた減ったというのを指標にしているので、そういう意味でいくと状況を見ていただいてもいいかなと。うちのほうとしては、つくれば人が来るであろうというところで交付金をいただいて、にぎわいというところを目指していたので。委員がおっしゃるとおり、29年度やる予定が30年度繰り越しで、30年度に実施設計でしたので、実施設計だけでは人を呼ぶものではありませんので、ここの数字の中には当然事業の効果というのは入ってきていないのかなと考えています。今年度からということになるのかなと思います。数字の評価という意味だと、来年度に令和元年度の評価をする際にあらわれてくるものなのかなと考えています。ただ、仕組み上、そうはいかないので。強いてやるのであれば、今年度の状況を見ていただいてご判断いただくというところでしょうか、30年度分ということであれば。

○山下委員 要するに、7月からの利用者数で見ましようという話。

○事務局 そうですね。じゃぶじゃぶ池に親子が来れば、当然、KPI①の入場者数のところも増えてくるだろうというところで設定していますので。ただ、直接30年度の実績にはつながらないので、31ということにはなりますが。

○林委員長 むしろこの事業を考えると、7月の実績を見て意見を出すぐらいでも大丈夫なんですか。それとも、タイミング的にもうそろそろこれを出したいとかというのがあって、その辺の感覚がわからない中ですけど、もし、タイミング的に、7月のデータが間に合うぐらいで評価していたのでは間に合わないという話であれば、例えばこのグループの中の意見として、にぎわい創出のための装置はつくったはずですので、それをうまく活用する形でKPIを進捗に活用してくれというような趣旨の意見をつくることもありますよね。それは大丈夫なんですか。7月20日のオープンで、例えば。

○事務局 本当はここで出るとよかったんですけど、そこができないので。

○事務局 数字としては効果は出てこないと思うんです。報告として提出する数字としては出てこないと思いますけれども、ただ、有識者会議の中の評価として、今年度実績を見た上で判断ということで、意見を書きいただけるといいのかなと思います。

○**坂巻委員** これは子供が利用するのに、リニューアルしたということは、安全面とか水質を考慮してつくったので、それを考えれば、効果がこれからあるということであれば、単年度で見れば効果がある。リニューアルするための設計委託をしたことだけでも効果があったかもしれないと思います。どの辺をリニューアルしたんですか。

○**事務局** 一番大きいのは、水を循環させるポンプです。もともとは手賀沼の水を入れてそれを循環させて子供が遊べるという想定だったのですが、そのポンプがだめになっているのでポンプを全面入れかえ。なおかつ水をずっと張った状態になるので、小さい子が遊ぶ上では衛生上よろしくないということで、最低限、小中学校のプール等を目指すということできれいにするということが一番大きいところです。

○**事務局** あと、保護者、親の方の見守りといいますか、居場所といいますか、そういったものを設けています。近くで親がいられるようなところをつくっています。

○**坂巻委員** すべりづらい石なんですか。

○**事務局** 走る子が多いので、周りの部分についてはコンクリートではなく若干走りやすいような工夫をしているとか。

○**事務局** 夏場の状況を見てから評価いただいても、評価自体は間に合うと思います。なかなか今の段階では難しいのかなと。

○**事務局** 利用状況を皆さんにメールでお知らせをして、ここの部分だけはかかっていただいて、附帯意見のほうは先ほど言われたようなことをいただいておいて、皆さんからこういう意見があったのでということでうちで取りまとめて、①、②、③のどれかにするということが可能かと思います。

○**山下委員** 最初は人は来ますよね、珍しいので。

○**事務局** 来てくれないと困りますね。

○**山下委員** 来てよければ結果は見えていると思います。

○**事務局** じゃぶじゃぶ池に来た方がどれだけ水の館のほうへ来ていただけるか、そこは課題と工夫が必要とは思いますが。そこにつなげていかないと、ここの指標としては意味がないものになってしまいますので。

○**事務局** さっき言っていたいただいたように、つなげられる施設ができるのであろうという評価でいただくというのも一つではあるかと思います。

○**林委員長** しかも、これ一本の事業ではなくて、ウォーターサイド整備ですから、この事業プラス①、④の事業をつけて。

○事務局 そうですね。ほかもありますので。

○林委員長 それでここの評価をしなくてはいけないということですか。

○事務局 はい。

○林委員長 一番最初のところは以上で、今のところの問題は確かに現状ではありますけれども、順番に行くと、①のところだと、実際には確かに実績値がプラネタリウムについては出ていて、ミニ新幹線については運行を開始し、かつ、今データをいただいているという状況になっております。

プラネタリウム自体はこの表に書かれていますし、ミニ新幹線のほうについていただいている資料3に、29年度から31年度までの利用状況というところで過去の推移が一応あるという形になっています。

○事務局 ドクターイエローは残念ながら、春休みにそれほど伸びていないのが実情ではあるのです。

○林委員長 数字から追いかけるというより、むしろ今後が期待されるけれども、効果がそれほど発現しているとは言い切れない事業ばかりが集まっているイメージなんですかね。

○事務局 そうですね。あとは、外なのでお天気に左右されるというのもあります。ただ、今、それくらいの子がないので私も何とも言えないのですが、ドクターイエローは非常に人気が高いところで注目を各市でしているのです、そういう意味では、これからこれを目指して来てくれる子供たちは増えるかなと。これから夏休みとかに入ってくるので、暑いですが、乗ってくれる子は多くなるかと思えます。ずっと同じ電車だと、何回も来るというところでは飽きが来るので、そういう意味ではリニューアルというところで、今一番人目を引くドクターイエローを入れたというのは、そこの効果をはかるという形で。

○山岸委員 周知をどうしているかというのと、子供自体が減っているのです、その辺も数どう評価したらいいかなというのはちょっと思いました。いくらおもしろいといっても。

○事務局 なかなか増えていくのが難しいのです。

○山岸委員 もともとの母数が減っているのもあるので。

○事務局 維持していければいいほうかなと。

○山岸委員 ただ、アナウンスとか、お天気にももちろんよると思いますが、好きな人は遠くからでも来られると思うので、SNSを使つての発信をどうやっていくとか、じゃぶじゃぶ池は20日からというのを多分ツイッターなんかで知ったと思うんですが、フォローしている人がどれぐらい本当に来るのかなと思っていました。

○事務局 初めるときはやるんですけど、春休み前とか夏休み前にもきっとそういう意味ではやったほうがいいのかもしれないですね。

○山岸委員 お天気よさそうだからぜひ来てくださいみたいなものをアップするとか、先週の土日はこんなに来てましたよみたいな写真をアップするとか、楽しんでいること自体をアップしていくみたいな、行ってみようと思えるかどうか。

○事務局 今やっているのは、雨天で運行中止になりましたというもの（笑）。

○山岸委員 そしたら、隣のプラネタリウムに来れますよとか、代替案みたいなことがあってもいいのかなと思うんです。だから来ないんじゃないくて。室内のものもあるわけなので。

○林委員長 やる方向としては、交流人口というか、観光客とかにすぐ来てもらうところに目標があるわけではないんですが、むしろそういう方向性の意見のほうがよろしいんですかね。装置がいくつかある中で、今後、入場者数が増えたり、さらには事業の目的が、それをどういうふうに格づけした施設としてやるのかというので、こういう装置にせっかくこれだけのお金をかけてつくったのであれば、そういうのをうまく活用してくれというあたりで意見の一つの方向性になりますかね。

○山岸委員 楽しんでいる人の声を出すみたいな。

○林委員長 ツイッターを見たというのは結構多いですよ。今度電車走りますみたいなのをやっていたりするから、ああいうのをもっと広がっていけば確かに。

○山岸委員 インスタ映えもしますよ。

○事務局 そうですね。

○林委員長 人は来そうだという気がしますけど。

○山下委員 今、全体は効果が具体的には出ていないけれども、今後の効果の発現が期待されますみたいな。多分効果について何か言わなければいけないとすればそういう話なんだろうと思います。まだ完成して間もないということとか、6月とかずっと雨だったじゃないですか。これ、6月ですよ、設計は。5月は結構天気もいい日があって、天気は左右されますから、天気がよければ増えるような予兆というか、そういうのは見えていました。ただ天気にやっぱり関係があるので、回復すれば今後増えることが期待できると思いますという意見だったらいいかなと思います。

○林委員長 ①、②、③はつけにくいところがありますけどね。

○山岸委員 評価とはちょっとずれるんですけど、じゃぶじゃぶ池は、お着がえしたりとかシャワールームとかあるんですか。

○事務局 一応あります。あまり知られていないですが、一応あります。

○事務局 でも、ご存じないということは、やはりそういうことなのでしょうし、利用しやすいかというとなかなか。

○坂巻委員 本当はそういうのがたくさんあると、例えばそこに朝からカフェがあったりとか、あと、ランニングする人とか自転車の人も増えてきたので、本当はそういうのが一番理想ですが、なかなかそこまでいかない。

○山岸委員 長期的に考えると、そこをずっとやってもらうのであれば、ここのお金を投入するときに、お着がえルームみたいなものを整備しなきゃいけないねとか。皇居周りのランニングなんかもそうですけど、そういうものがあるから、朝走って、その後着がえて会社に行くみたいなものがあるから、長期的に考えるのであれば、そこに資金投入も必要だしみたいなことになるかなと思います。もし連れていくとなるとどこで着がえするのかみたいな。近くの人だったらいいけれど、遠くからとなると、ちょっと。

○林委員長 関係なく飛び込みますからね、水があれば。着がえがないとか、うちが遠いとか関係なく。

公共施設の見学の話なんかもありましたけれども、遠いところのほうがいいんですかね。やや評価のほうからずれていく話になりますけれども、ああいうところだと観光という切り口ですが、今のお話だと、育児とか子育てでどう使うという部分の切り口のお話で、もしかするとないかもしれないとすれば、逆にそういう感じで公共施設に光を当てて、市庁舎のときも総括的なお話は今まで何度もやっているの、むしろ重点的なプロジェクトであれば何か一つそういう観点で。よく横断的な話をしようよといってもなかなか横断的な核みたいなものに至らないというところですので。

○山下委員 評価の話になるんですが、自分の感じからすると、手賀沼公園とか親水広場とかリピーターが多いんじゃないかという気がするんです。年に何度も来るような、車とかで1時間以内で来れるような人。地方の方がたまに観光で来るという観光地というものではないような気がするんです。リピーター率とかそういうものは調査したことがありますか。

○事務局 リピーター率は多分ないですね。トータルの延べ数だけだと思います。

○山下委員 多分その辺、車のナンバーとか見ればどの辺から来たかある程度わかると思うんですけど、リピーターだとすれば、その人が毎回来る理由わかるだろうし、もっとこうなるといいなというような意見もあるんじゃないかと思うんです。要するに1回こっきりじゃなければ。だから、そういう情報のとり方もあっていいかなという気がします。

私は手賀沼には車で30分ぐらいで来れるところなので、子供が小さいころはしょっちゅう来ていたんです。いろいろ利用させていただいた口ですけれども、そういう方が結構多いんじゃないかという気がしているので、ターゲットをどこに持っていくかという話ですが、全国有数の観光地みたいなところは全国から来るんでしょうけれども、そういうところでもないような気がします。でも、近所の人たちがおもてなしして、その周辺の東葛地域の人が結構リピーターで来てくれるということであれば、それはそれでにぎわいができるので、それにターゲットを絞ったような、さっきお話ししたように、子供を連れてきてちょっと着がえさせるとか、シャワー浴びたりとかいうのがあればいいなみたいな意見があるかもしれないので、そういった意見をとるようなものがあるといいかなという気がします。評価の話とは別になってしまいますけれども。

○林委員長 たしかRESAS（リーサス）なんかをいじってみると、今、所長さんがおっしゃられたように、我孫子はそういう傾向だったような気がするんです。外から来ると、東葛地区のような周辺地区のところが確かにリーサスだとそういう数字になっていた気がします。

○山下委員 東葛地域のオアシスみたいなものだと思うんですね、手賀沼周辺は。

○林委員長 海外とか遠くから来るわけじゃなくて、意外とリピーター的な、我孫子とか柏とか取手あたりの人がこの辺に来ているみたいな感じ。

では、話を評価に戻しまして、一応、①、②、③のどれかをつけなければいけないということです。今後、期待含みでとか、期待可能性があるというものになっているわけですが、3択は難しいですよ。もう一個何か欲しい気がします。あまり効果がなかったとは言えない、これからどうなるかという、これを活用していくということになりますし、まだ1とも言えない段階です。

○山下委員 ①、②、③のどれかじゃなければいけないということでもないんですか。どれかを選んだ上で。

○事務局 選んでいただいて附帯意見ですね。

○林委員長 大きな一歩があったという意味では効果があったということなんですね。ただ、今おっしゃったように、これを附帯意見にいただければ意味合いとしてはありますかね。

○事務局 若干導入の時期が往々にしてずれているというところも否めないもので、多分、1は非常に難しいと思います。じゃぶじゃぶ池もおくれましたし、ミニ新幹線も本来であればもう少し早い時期に入れられればよかったのですが、入れたのが3月の末なので、それほどト

一時的な効果が見られなかったということと、あとは、4番目の生産履歴システムのほうも、当初予定していたより導入がかなりおくらせているので、効果のほうははかれなかったということはあると思います。

○事務局 今後期待されるということと、あとは、先ほどおっしゃったように、SNSとかを活用することでさらに効果を上げていく必要があるとか、そういうような意見になるのでしょうかね

○事務局 トータル整備とSNSとで今後もっと。

○事務局 ニーズというかターゲットを。

○林委員長 きっかけとして大きく増やしていくという意味ですね。消去法でいくと②なんですかね。このグループ単独で全て決めるわけではなくて、出た意見を後で集約して全体を見ようという場面もありますので、その辺で考えさせていただければと思います。

○山下委員 効果があったでいいと思うんです。というのは、SLに関しては効果がはっきり出ていると思います。こんな数字は今までないし。ただ、その後、天気とかそういう左右される部分があるので、だから効果は一応ある。大いにというとまだそれはわからない。様子を見てその効果がはっきりしてくるというような意見じゃないかと思います。

○林委員長 残りの2事業についても同じような形で見ていただきたいと思いますが、3番の事業の魅力発掘・発信、シティーセールス推進事業ということで、ご覧になっていただいております広告費、委託費と保守料についての話がこちらに記載されております。

この事業についても、まず意見出した上で考えたほうがよさそうですね。何か意見があればご自由にご発言いただければと思います。

YouTubeの話と、花火大会の生中継と、首都圏の大型書店でのしおりの配布というのが1番目です。ここではありませんが、前のときに、高橋先生が近所で見たとか見ないとかで、もらおうと思ったらもらえなかったみたいな話をされていて、確かに一応やっていたのかなというのが前回の評価の話で出てきましたね。

○事務局 それは伝えました。市外の人だけじゃなくて市内の人にもというのはお伝えしているんです。今回どうしたんだろう。前回のときはだめだったから、今回は市内の人に向けてやったか。でも首都圏だな、違うな。

○林委員長 首都圏で配られたという形で書いてありました。

○事務局 そうですね。市内の店舗では配っていなかったもので、それは確かに高橋委員のほうから言われました。でもおっしゃるとおりだと思います。市外から我孫子に来ている方たち

もたくさんいるので、市外だけに発信をする必要はないのかなというところがあります。今後は、外だけではなく中にもということはお伝えしていきます。特に新しいのは、一番下のホームページのベトナム人対応の編集だけですかね。あとはこれまで例年どおりやっているものですね。

○山下委員 シティーセールス推進事業の指標というのは、どのようになるんでしょうか

○事務局 要は交流人口の拡大を目指すというところなので、本来であると、こういうのを見た方が、K P Iの一番最初のところでいくと②番の、我孫子に訪れたときにアビシルベに寄っていただくとか、あとは水の館のほうもPRはしているので、そういうところで①の入場者数にもつながるというところで考えてはいます。

○山下委員 K P Iの①とか②で一応評価を見ているという話ですね。

○事務局 そうですね。さっきもちょっと見ていたんですけど、今、手賀沼が映っているCMがあります。「一平ちゃん」の焼きそばスワンボート編とか、そういうので手賀沼公園を撮影地にしたり。あとはラジオだったかな、テレビだったかな、実況中継を水の館から市長のほうと一緒にしたり。そのポイントをなるべく手賀沼沿いとか水の館に持って行って、皆さんに知っていただくということはやっています。

○林委員長 先ほどと違ってK P I①、②に関係するという形になると、天候の状況とか、まだPRとか事業の効果が発現していないという前提条件はあるにしても、もう少し目標達成できるような方向の意見をつけておいたほうがよいような気がするのですが、そういった観点からこちらの事業に提案できる点はありますか。

○山下委員 ベトナム人にターゲットを絞っているのは何ですか。

○事務局 今までは中国、韓国が上位を占めていましたが、ここに来てベトナムの方が非常に市内で増えているんです。今は2番目ですね、ベトナム人の人口が。その方たちが市の情報がわからないというところがあるので、その方たちをターゲットに。実はこの前の年に、英語と中国語と4～5カ国語は翻訳機能をつけて、さらにプラスでベトナム語をつけたということになります。

○林委員長 単発でつけたのではなくて、たしか今までの事業のものを拡充しつつ、今度はベトナム語を増やしたというか、新たにつけ足した感じだったと思います。

○山下委員 英語もありますか。

○事務局 英語もあります。英語と中国語と。

○山下委員 英語と中国語と韓国語があって、それにベトナム語を加えたと。

○事務局 プラスしました。

○林委員長 資料をきょうお配りいただいていますね、A4の一番後ろのところに。翻訳回数集計で、数自体が・・・・英語からベトナム語まで。水の館入り口というものがベースになっていますね。

○山下委員 ベトナム人のアクセスとかそういうのはわかっていますか。

○事務局 アクセス自体は格段には伸びてはいませんが、定住していく中では、やはりベトナム人への対応は必要かなというくらい、ベトナムの方が増えているという事実があります。

○山下委員 働き場所があるんですか。

○事務局 働いている方が多いですね。市内に3カ所ほど農業研修で外国の方を受け入れるところがあるのがまず1点大きなところ。あとは、市内の病院であったり、企業さんが、勤勉であるということでベトナムの方を雇用しているというのがあるので、そういうところで増えています。

○山下委員 介護とかは。

○事務局 介護もいます。

○山下委員 今、介護を一生懸命ベトナムの人はやっています。

○事務局 市内の病院と介護の系列が多いところがあるので、そういうところで働いていらっしゃると思います。

○坂巻委員 地区でいうとどちらに住んでいますか。

○事務局 農業の研修センターは我孫子と湖北と布佐、3カ所です。

○坂巻委員 その近くに住んでいる人が多いんですね。

○事務局 確かにそのところの人口は多いので。

○山下委員 ページにアクセスすれば、ログでわかるでしょう。

○事務局 そうですね、多分、これでわかっていると思います。それほど多いかというと、そこまでは伸びてはいないですけどね。

ただ、日常生活している上で困っていることとか、周りの方からも教えてほしいという声がありますので、そのときに、市のホームページを見るとわかるよという紹介もできますので。

○山岸委員 こういうほうにしっかりお金を使うほうが良いような気がします。今ごろ申しわけないけれども。

○山下委員 まあ、難しいですけどね。でも、日常生活を一緒にやっている外国人の人、生活

に困ったことはいっぱいあるような気がしますね。

○事務局 そうですね。

○山岸委員 医療・・・にすごく困るんですよね。窓口とかでも大変困っていらっしやると思います。

○事務局 困っています、はい。

○山岸委員 後で、「こんなのがあったんだけど、知らなかった」みたいに言われたりとかもあると思うので。自治体も、情報発信の推進となれば、私はこのあたりがすごく大事ななと思っていて、あまりプロモーションとかそっちでお金を使うよりも、こっちでやったほうが。

○山下委員 横浜なんかだと、電話で24時間、どんな言葉でも照会すれば返ってくる。それは、人（職員）が対応しているんじゃないんです。AIを使っている。ちょっとそれを研究するといいと思います。多文化共生をきちんとやっていこうとした場合に。

○事務局 横浜はそうですもんね。

○山下委員 我々でも語学力なんてたかが知れているんだけど、今、本当によくできているみたいですね。こうやってしゃべっている言葉を、もう、同時並行的に日本語の文章にかなり正確にやって、それを、例えば中国語とかベトナム語とかとやれば、すぐにバーッと一遍に変換されて、かつ読み上げる。そういったことまでできるようなシステムが世の中にはあるんですね。

だから、初期費用はかかるかもしれないけれども、ランニングコストはそんなにかからないです。横浜だったと思います。

○事務局 あそこは、力を入れていますからね。

○山下委員 そうですね。だから、多文化共生でベトナムの人が越してきて、ベトナム語なんてわかる人はほとんどいないじゃないですか。英語ならまだしも。私は英語もだめですけど。そういった人たちがごみを捨てたいといった場合に、働いているときに聞けなくても、夜中にパソコンで打って、もしくはスマホで照会をかけて、ベトナム語とやればベトナム語で返ってくる。文字でできるというほうが楽だと思います。

○事務局 ちょっと調べてみます。

○山下委員 すみません、この評価とは違うんですけども、そんなことをやっているところがあります。

○林委員長 昔は、医療通訳がいないとだめだと言っていたみたいですけど、結局、医療通訳だって通訳と患者と一緒にいないといけないので、急病のときに対応できないので、今、

うまく機械化できないか、システム化できないかと、いくつかの市が横浜以外でもやっつけらっしゃるみたいですね。

○山岸委員 今、電話で3者で。

○林委員長 3者でやりとりできるみたいな、そういうシステムで。

○山岸委員 医療の場合は、生き死にとか、そういうところに直結してしまうので、結構医療は必死です。

○事務局 そうですね。

○山岸委員 特に市立病院は。ここは市立病院がないのであれですけど、そういう公的な病院は……救急になるとか。

○事務局 確かに、窓口が大変な思いをしているのは十分わかっているの。

○山下委員 窓口ももっと楽な、Googleの無料のソフトらしいんだけど、ベトナム語でも何でもしゃべってもらおうでしょう。それを、日本語に変換することができるみたいですよ。

○山岸委員 だいぶ性能がいい。

○山下委員 昔は何を言っているかわからないような翻訳をしていましたけれども、だから、窓口でスマホとかそういうものを使っているところもあるんじゃないですかね。もう少しできるようなものもあって、例えばこういったところでみんなが話し合っているのを、声のあれで誰々、誰々というふうに分けて議事録をとったりというような……。

○事務局 議事録は、どこかの県が導入していますね。

○山下委員 それぐらい、言葉を文字にして、外国語にそれを変換するというのは、かなり進んできている状況があるから、5,800万かけてホームページの改修をやっているんだけど。

○事務局 これ、5万8,000円です。

○山下委員 5万8,000円か。

○林委員長 単位、千じゃないみたいですから。

○事務局 これ、大もとに大きいのがいて、そこにどんどん機能を追加しているだけなので、今回はたまたまこれですね。もっと大もとはかかっていますから。

○山下委員 なるほどね。要するに、今ホームページのいろいろなところを、「ベトナム語」というのを押すと、ベトナム語に変えて出るようになっているわけですね。

○事務局 そうですね。

○林委員長 シティープロモーションというと、どちらかというと観光地、こんなすばらしいところがとか、白樺がありますというメッセージとかプロモーションだったかもしれないですけども、住み続けられるまちづくりのためのプロモーションみたいなものを何か出していけるとおもしろいかもしれないです。

すばらしいところってみんなすばらしいところだけど、そうじゃなくて、外国人の人もやっぱり一住民として地域に住むわけですから、そういう人たちの不安がつのってしまうと、単に日本人だけではなくて、これから人口が減っていくときの対策として、先行的にそういう部分で何かできてもいいような気がするんですよ。むしろ、評価も大事だけれども、もし意見というのがあれば入れていって、今のこれ自体は、やっていらっしゃる意味はあると思うんですね。これまであまりなかったですよ、住み続けられるまちづくりとプロモーションって、多分、この中の議論で出てきていなかったけれども、今聞いてみると、やはりそういう課題ってありそうですから。

意見の方向性としては、若干、目標値を達成していないところがありますので、もう少し新しい切り口で、プロモーションとか生活に必要な情報を市民に提供していくというような話を、魅力発掘、発信というところにもつなげるし。

特に、いろいろな評価をやっているとよく出てくるのは、予防注射の問題が出てきますけれども、ああいうのも結構手厚くやってらっしゃるところもあって、うまくそういう部分を、まあ、外国人の人に向けてやるのであればどうかということはあるにしても、うまくやっていけば、もしかすると、社会像を別の観点から見ていく切り口になるかもしれないですね。

○事務局 今いただいたような感じのところを附帯意見にさせていただきます。どちらかというと、②で大丈夫ですか。

○林委員長 大いに効果があったというのは、先ほどの事業と違ってK P I が直で関連性が読み取れるというところがあるから、やっぱり①は言いにくいですよ。とはいえ、実績4万数千人というのは確かではありますけれども。

実際には社会的な効果、住宅を確保してこの数字になっているので、厳密なところは言えないんです。確かに。

○山下委員 アウトプットはあるんだよね。それが、要するにアウトカムとして。

○林委員長 アウトカムがどうつながっているか、よくわからないところがいっぱいあって。

○山下委員 いろいろな要素がかかわってくるからね。

○事務局 この交付金だけで見るとですね。それと、もともとのK P I がそんなに増えてはい

ないので。

○事務局 直結していないというのが一番の問題かもしれないですね。

○山下委員 これ、追加評価すると効果を検証していないと事業の継続って認められないんですか。

○事務局 どうでしょうね。ただ、国のほうでは、やはりK P Iを非常に重視はしていますね。効果がなかったのだったら、何でだというのはすごく確認されますし、逆に、今回はちょっと下回った要因でもあるんですが、昨年度が非常に数字的に伸びたんですよ。K P Iとしては、①と②の29年度の増加が非常によかったんですよ。なので、国のほうは、さらに上を目指してくださいということで、ここで指標の変更をされていて、これまでの数値よりもさらに倍増して上がっていくような数字に変更をさせていただいたんです。そうしたところ、それほど伸びなかったという現実があったので、やはり国のほうとしては、K P Iは非常に重要視しているというところではありますね。

だから、一時期、新聞とかだと、K P Iをあまり達成していない市町村さんには通告をしますみたいなところもあったんです。今はそこまでの動きはないですが、今年度、来年度で終わるので、そこがどう来るかというところですね。

○山下委員 指標とか目標値の立て方によって、結果って全然違ってしまいますから。

○事務局 そうですね。それは今回、1クルーで私たちも随分学んだので、次のときには、K P Iはやはり慎重に考えなくてはいけないかなとは思っています。

○林委員長 前年と同じ6,000か7,000くらいの目標であったら、それは見え方の問題ですから問題ないんですけどね。

○事務局 そうですね、やはりオープン之年とそれ以降は、全然違いましたね。

○山岸委員 指標自体はこれで間違っていないんですか。

○林委員長 間違っていないですね。さらに上を目指そうという国の当然な指導があって、6万になったという。

○山岸委員 桁が違うというのがすごいですね。

○事務局 そうなんです。

○林委員長 去年あったゴルフ大会みたいなものに5回ぐらい行っちゃえばね。そういうわけにはいかないでしょうけれども。そうしたら、違う意味で大変になっちゃいますね。

○事務局 やっぱり、数を伸ばすには大きなイベントをいくつか入れていかないと、伸びてはこないですね。通常の来館者数だけでは、もう伸びてはこないと思うので。

○**林委員長** 今の3のところは②ということで、今、内容をお話しさせていただいた中から意見をまとめていただくということでよろしいでしょうかね。

そうしましたら、最後の4の移住・定住促進のところになりますけれども、こちらについては、ご覧いただいているとおりの、非常に実績があったということで書いていただいています。

○**山下委員** こういう取り組みをするのであれば、もっと予算をつけて、いっぱい使いたいですね。

○**事務局** 特に、②の女性支援フォーラムは、この30年度に通常の起業個別相談会等をやっているんですが、その中で、女性の方たちから、やはり女性だからこそその悩みの相談があるので、ぜひ開催してほしいということで、昨年実施をしたものになっています。実際、参加者数もかなりあったので。

○**林委員長** どういうほうへ起業されているんですかね。特に女性1名の起業とか、上では2名の起業がありますけれども。

○**事務局** 今、お店とかだけではなく、何かいろいろな展開をされている方が多いですね。一つの業種だけではなく、いろいろ地域に貢献するものとかをいくつか持っていらっしゃる方が多いですかね。

○**事務局** 確認してきましょうか。

○**事務局** 手賀沼サンセットの人も、一つじゃないものね。

○**山岸委員** よく、NHKのニュースとかで、埼玉かどこかの地域で、女性が、小さいけれどもいっぱい起業している。子育て中の方たちが。そういうのがいっぱい広がっていつている。やっぱり、支援が特化していつてきちんと情報が発信されれば、こういうふうに起業する人たちがいっぱいいるんだなと思いました。

○**林委員長** こちらの分野に、何か皆さんからご意見とかありますかね。

○**山岸委員** これも評価と違うのかな。報償費だけじゃなくて、継続的に支援するみたいな、相談できるというのはあるんですか。

○**事務局** 制度はあります。起業した後の方へもフォローとかがありますし、融資の制度とかもありますので。

○**山下委員** 移住・定住促進で、この起業というのが入っているのだけれども、多分、単純に考えると、住宅開発したり企業誘致の施策のほうが移住・定住の効果は大きいと思うんです。まず、この起業というのを地方創生の交付金の施策で入れたというのは、金額の話から、こ

れぐらいしか交付金の資格がないのでと、そういう話ですか。

○事務局 種々やっているものはあるんですよ。

○山下委員 市で何かやっていますよね。企業誘致だったり。

○事務局 やっています。この年、30年度にちょうど新しく始めた事業であれば交付金の対象になりますということで、プラスアルファの部分だけだったんです。

○山下委員 新規じゃないといけないのね。なるほど。今までは起業というのはあまりやっていなかったの、それを始めてみたという話ですね。

○事務局 個別の相談会というのはそうです。全体の相談会であったり、あと、塾のような形で何回か講座を受けた方を支援していくみたいなものはあります。やっぱり、個人個人によって相談する内容が違うので、今回は個別にやっていくのと、あとは最近、女性の方が非常に増えているので、そこに特化した形というところで、30年度はこの2本を新しくやりました。

○山下委員 なるほどね。

○事務局 市内で起業していただける方が根づいてくれば、そこに雇用も生まれるので。

○山下委員 12名参加して、実際に起業は2名だったかもしれないけれども、そういう気持ちがある人は、ほかにも10人ぐらいいたという話で、その人たちは、また手を挙げて話をさせてくださいというふうな。

○事務局 そうですね、個別相談会以外にも、先ほど言ったように、ここで相談したから実際に具体的に創業を考えてみようとなると、通常やっているメニューのほうに移っていかれるとか、そういう仕組みになっているので。

○山下委員 だとすると、その相談会后、すぐ起業したというのは2名だけだったかもしれないけれども、相談会に参加して、いろいろと紆余曲折を経て起業すれば、それはそれで効果ですよ。そこまでの数は追えないんですか。

○事務局 トータルの追えるかな。

○山下委員 相談会に参加した人が、その後、起業したかどうか。

○事務局 確認はしてみます。多分、皆さん、個人名で申し込みはしているので。

○山下委員 多分、起業と言ったってすぐできないんですよ。やはり何年間の準備期間を通して起業ですよ。場所の確保だとか、人の確保だとか、ノウハウとか。だから、すぐにできるものもあるかもしれないけれど、もう少し時間がかかるんじゃないですか。

○事務局 確かにそのとおりですね。

○林委員長 ここに根づいていってもらって、頑張るという取り組みみたいなものが必要だということですね。今のお話を聞いていると。

○山下委員 継続的に追いかけていく必要があると思っています、ぐらいいい話でいきますか。やってすぐ2人が出たというのは、大きな効果だと思っていますと。また、起業にはそれなりの準備期間、資源の調達、そういったものが必要になるので、受けた方が今後、また起業というふうなことも考えるかもしれないし、それはそれで期待というようなことでいいかなという気がします。

○事務局 今後、展開していく上で、どういう流れで人が動いているのかというのは、所管課として把握するのは大事だと思いますので。

○山下委員 地元の方ですか。

○事務局 地元だけではないと思いますね。大半は地元の方ではあると思います。でも、相談会に出席ではないですけど、うちの市長が柏のほうとかに行って講演等をするので、結構、我孫子で出店したいという方がいらっしゃるとか、そういうお話も聞くので、必ずしも我孫子の方だけではないと思いますね。

○林委員長 評価としては、①、②、③でいくとどうなんでしょうかね。これは、前向きに見ると①なんでしょうかね。全部②でもっていかがですか。

○事務局 なんせ、大もとのKPIが達成できていないので。

○林委員長 そうなんですよね。とはいえ、これから非常に期待をかけている部分もあるので、②なのかなという感じもしますよね。

それでは、一旦、②ということによろしいでしょうか。

○事務局 はい。

○林委員長 ありがとうございます。

本日の作業課題、4時を目途に終わりにしたいと思いますけれども、資料4をご覧になっていただければと思います。

具体的に言いますと、7ページの「基本目標3. あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり」というのがありまして、これがたしか14ページまでであるということです。15から18ページが、「基本目標4. あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり」というところでございます。

こちらについての見方になりますけれども、まず評価の単位が、7ページを見ていただければと思いますけれども、「総合戦略の基本的方向」ということで、くくりごとに私たち有識

者の意見をつけていくということになります。

こちらの「総合戦略の基本的方向」の(1)については、「結婚・妊娠・出産・子育てまでの継続的支援」ということで、施策という単位があって、「出会いから結婚を実現させるための協力支援」と、もう一つのくくりがありまして、「安心して妊娠・出産・子育てできるための環境づくり」という、この2つを合わせて、一つの方向性、基本的方向の精査、有識者評価としては、23から30までを総括したときに、順調なのか、ほぼ順調なのか、順調とはいえないのかというところを、またこれも一つずつ意見をつけていくという形になろうかと思えます。

まず、大きい基本のお話からしますと、達成状況と事業評価というところが前年度の実績に対する評価になっておりまして、この中で遅延になっているものが、事業番号の25番が一つ遅延になっておりまして、もう一つが、29と30というところが遅延という形の状況になってございます。そのほかについては、基本的には達成という形になっておろうかと思えます。

遅延を中心に状況を確認させていただきたいと思えます。

25番のところ、特定不妊治療助成件数についてですけれども、達成率がマイナス64%ということで遅延になってございます。ただ、こちらについては、事業計画のところを見ていただきますと、終わりの2行あたりに28年度から43歳以上が対象外となって申請件数自体が減少しているというような、交付の対象範囲自体が少しずつ変化している中での、数字に変化が見られるという指摘が一点あります。特に26年度からは、年齢と助成回数の制限が設けられて、28年度からは、ある年齢以上の対象者は対象外になったという、制度の見直しがある中での30年度の実績というところになります。

もう1点、遅延のところをもう2つ見ていきますと、29と30ということで、29のところ、市独自の予防接種を行った子供の割合というものが遅延という形になっておりますし、30番はフッ素洗口の実施者数が遅延という形になっております。これ以外は、基本的には達成しているという状況になっていたと思えます。

○山岸委員 一つ、29でよろしいですか。これの中身を見てみると、ロタとインフルエンザと両方合わせてやっていますよね。ある意味、もったいないというか、ロタとインフルエンザとでは種類が違うと思うんです。ワクチンの考え方の。なので、ロタに関してはすごく増えていて、きちんと接種されているので別に考えないと、これで減少となると、インフルエンザも大事だけれど、ロタがきちんとされているというのは、私はとても評価できることか

など思っていて、まとめるのはもったいないと思って見ていました。

○**林委員長** 確かに、小児インフルの問題とロタウイルスは2つだものね。

○**事務局** ただ、これ、一番最初は、上の29で斜線を引いてあるように、小児のインフルエンザだけだったんですよね。そこがあまり伸びなくて、であればロタも入れると伸びてくるかなというところで、実数としては、ロタを入れて伸びてはきているんです。

○**山岸委員** ある意味、少人数の指標自体がちょっとどうかなみたいな、これを評価するに当たっても、指標としてはあまり適さないというか、市でロタウイルスは大事だから助成していますというところでは、とても評価できることだと思っているのですけれども。

○**事務局** 要は周知率のところではあると思うので、増加を目指しているというところではあります。ただ、遅延とはいっても、パーセンテージを見ているとそれほど低くはなくて、昨年度よりは伸びてはいるんですよね。

○**林委員長** 実績を見たら伸びています。

○**事務局** ただ、定数で100のうちのどこまでを達成したのかというところで遅延か達成かになってしまうので、数字上は遅延にはなっていますけれども、実際のところは28、29年度より伸びてはいるので。

○**山岸委員** 分けて出しておいてもいいかなと思います。もちろん、このままでもいいけれども、ロタをすごくちゃんとやっているよというのが、もっと出てもいい。よく見るとみたい

に。

○**事務局** 次の総合戦略をつくるときには、この指標がいいのかどうかも含めて検討する必要がありますね。

○**林委員長** 市の特徴ある施策ですから、何かうまく評価のところでもPRできるようになれば。

○**山岸委員** 助成があるかないかは、お母さんたちにはすごく大きいんですよね。子どもにとってのメリットとか。働く親御さんが増えているので、どこかで子供さんが休んだりすると、結構大変。経済効果まで変わってきてしまうので。

○**事務局** そういう意味では、子どもの母数が減ってくると、これも実人数は減ってくるので。

○**山岸委員** 今、対象者と実人数で見て、対象者の自主接種割合を見ているんですか。

○**事務局** そうです、接種率。

○**事務局** 割合ではあるので。

○**山岸委員** 人数が減っていても、対象がどれぐらいかというのを、そこをちょっと。

- 事務局 はい。
- 山岸委員 不妊治療に関しては、いたし方ないような気がするんですけども。
- 事務局 そうですね。国の制度で頭打ちになっているので、一番最初の目標は43歳の方まで含めていたところではあるので、多分、その分が着実に減っているのかなというところは見えます。
- 山岸委員 ここは、あまり伸びなくても。冷たい言い方かもしれないですけども、もう見なくてもいいような気がします。
- 林委員長 司法的な影響が大きいですね。
- 山下委員 すみません、ちょっとつなぎに質問で、これ、高齢者の補助もやっているんですか。
- 事務局 インフルエンザですか。やっています。
- 山下委員 やっているんですね。それとは別に、子供のものを今回、子供の事業ということで新たに始めたということですね。
- 事務局 そうです。
- 山下委員 それはほかの近隣の自治体でもやっていますか。あまり聞かないですか。
- 事務局 最近は、結構やっているんじゃないでしょうかね。回数と、1回の金額は、それぞれみんな違うと思いますけれども。
- 山下委員 なるほど。それは現物支給ですか。それとも、後日精算ですか。
- 事務局 受けるところによってですね。市外で受けた方は後日精算。市内だと現物ですね。
- 山下委員 減額された金額で受けられる。
- 事務局 はい。
- 山下委員 さっき、接種率という話がありました。接種率で見たほうがいいんですよね。接種率の数字というのは出ているんですか。
- 事務局 接種率でいくと……。
- 山下委員 上がっているんですか。
- 事務局 上がっています。若干ではあります。
- 林委員長 実績値が摂取率と入れたらいいわけですね。
- 事務局 接種を行った子供の割合なので、多分、これが接種率だと思いますね。
- 林委員長 ああ、なるほど。
- 事務局 この事業評価のところにも書いてあるんですが、昨年度は、インフルエンザのワ

クチンの供給量が途中で少なくなってしまうと、受けられない子たちもいるのではないかと
いうことで、実施期間を少し延長させていただいたところ、打ってくださる方も増えたとい
うことがあります。なかなか、その年の流行もあるので、つかみづらいところではあります
けれども。

○**山下委員** 26年度に制度を開始して、26年度が一番多かったという話になるのですか。

○**事務局** 26年度が多かったですね。当初は、それこそこれでお休みするお父さんお母さん
が莫大な数いたので。倍数ですからね。自分はならなくても子供はというので、皆さんやっ
ていましたね。

○**山下委員** 接種する人は、基本的にはこの補助を利用するのでしょうか。

○**事務局** しますね。

○**山下委員** そういう意味では皆さん活用しているんだけど、接種しない人というのは、
活用のしようがない。接種しないという人は、そもそもする気がないのか、よくわからない
んだけど、補助すれば増えてくるものなんですか。

○**事務局** と思いますね。補助がなければ受けられない家庭もあると思うので。

○**山下委員** 金額の問題ですか。

○**事務局** 金額の問題で。小さい子は2回受けなくてはいけないので、結構、費用がかかるん
ですよ。

○**山下委員** なるほど。

○**山岸委員** 2人、3人いると、さらにかかる。

○**山下委員** 3掛けなくちゃいけなくなるからね。そうすると、現物支給でちゃんと減額され
るのだから、そういうふうな制度があれば、今まで受けなかった人も受けてくるだろうとい
う想定で。

○**事務局** そうですね、そこは必ず増えていくと思いますね。

○**山下委員** 多分、26年度以前のものは、数字としてはわからないですよ。

○**事務局** そうですね。いつからだったかな。でもそんなに前ではないはずですね。

○**山下委員** 26年度から半分、要するに過半数の方が受けている状況が続いているというの
を、どう評価するかということですよ。これがどんどん増えていくものなのかどうか。

○**事務局** あとは、その年のはやりですね。インフルエンザのはやり状況。

○**山下委員** それもありますね。外的な要因としてね。

○**事務局** 始めた当初は学級閉鎖どころではなく、たしか学校閉鎖もあったと思うんですよ。

学校自体が感染してしまっただけで、なので、そういうところを考えると、毎年毎年受けている子供たちが増えてきて、抗体もできてきているのかなど。お医者さんによっては、毎年受けていれば2回受ける必要はないよと言ってくださるところもあるようですし、あとは、それほど学校ではやっていないと受けないかなというところもありますので。

あとは、受験生はもれなく受けるのか。やっぱり、その子の事情によって、受験生のいるおうちでは、お父さんもお母さんもみんな受けないとだめみたいなの。うちの市長も、子供の受験が一番なので、そのときだけは受けさせられたと言っていましたけどね。

○山岸委員 あとは啓蒙ですね。

○事務局 そうですね。高齢者の方も、助成があるから受けに行こうという方がいますので。

○山下委員 そうすると、もっと伸びていいはずということですかね。

○山岸委員 私としては、そう思いますけれども。

○事務局 どうでしょうね。あとはその年のやはり状況かなというところはあります。最近、学級閉鎖はありますけれども、学年閉鎖になるのも少ないくらいになってきているので、一時期のように莫大に広がるということはないですね。保育園とかはどうなのかしら。

○坂巻委員 10名超えると、もう松戸には報告しなければならない。今回は、結構インフルエンザが多かったんですよ。でもほとんど受けていると思いますよ。

○事務局 小さい子はね。

○山岸委員 受けていらっしゃるんじゃないですかね。

○事務局 保育園はもらってくるので。

○山下委員 そうですね。そこで感染しちゃうということ。

○山岸委員 そうじゃない人たちがなかなか増えないのかなという気はしますけど。

○山下委員 市の補助を受けなくてインフルエンザの予防接種を受けるという話はないんですかね。

○事務局 ないと思いますね。

○山岸委員 ないと思います。

○山下委員 今まで補助がなくても受けていた人は、ずっと受けていたと思うんです。受けられなかった人が、26年度に補助ができましたということで受けて、54.7%というような数字に増えました。そういった人たちにその後もずっと受けていただいて、大体過半数受けているんだけど、それ以前と比較ができないじゃないですか。だから、効果があったかどうか、遅延と書いてあるんだけど、これから先、本当に80%、90%に近づいてい

くのは可能なのかなのかなというのは、私なんかは疑問に思いますね。受けない人は受けないものね。

○事務局 そうですね。

○山下委員 お金の問題ではなくて。「大丈夫だ、かかったことないから」という理論。

○事務局 そうですね、いますね。

○山下委員 ここの評価はすごく難しいと思いますけれども、もう効果があらわれて、ずっと過半数の状況で来ているんじゃないかという感じもしないでもない。その以前との比較ができないからね。

○事務局 そうですね。この新型インフルエンザで学級閉鎖になったりとか、そういうことはありませんでしたから。

○事務局 あとは、もっと啓発をしていけば増えるという余地があるのであれば、そういったことをもっとやっていくべきだという評価をいただくことになるのかなど。

○山下委員 そうですよ。我孫子市では、お子さんも費用を補助されます。だからぜひ受けてくださいね、ということがどこまで周知されるかで、またちょっと違ってくるかもしれないですね。

受けに行ってみたら補助が得られるというのがわかった人は、この施策の効果で受けているわけではないですね。たまたま行ったら、安かった、ああよかったということですから。

病院とか指定のところに、そういったポスターとかは張ってあったんでしょう。

○事務局 ありますね。小児科とかには必ず張ってありますし。

○山下委員 そうすると、風邪か何かで行った人も、補助を受けられると。

○事務局 ただ、ピークの時よりは、そろそろインフルエンザがはやるので打ちましようねとか、そういうのはやっていないかもしれないですね。こういう制度があるというのはPRしているんですけども、インフルエンザになってしまうと大変だから受けましようという意味での啓発は、それほどはしていないかもしれないです。きっとそういうところから、だんだん薄くはなっているかと思います。

○山下委員 「こういう制度があります」でいいと思いますけどね。

○事務局 ただ、受ける時期があまり遅くても効果が出ないので、多分、ある程度の時期にはみんな受けていただく。小さい子は2回受けないといけない。1回目との間隔を置かなければいけないので、できたら適正な時期に1回打って、来るころには備えましようみたいな、

そういうのが必要かもしれないですね。

○山岸委員 制度の案内はいつしているんですか。我孫子の広報とかですか。

○事務局 あと、ホームページ等の「健康」というようなところにちょっと載っていたりはします。

○山岸委員 時期的なものであれば、我孫子の広報に時期的に載せるとか、そんなことができるかもしれないですけどね。

○事務局 そうですね。今、お母さんたち向けに子どもの情報を発信するアプリがあるので、そういうところでお知らせをしてあげるといいかもしれないですね。

○山岸委員 ロタに関しては、生まれてから受けられる期間がどの期間と決まっているので、それは出生後のアナウンスの中でやるものなので、インフルエンザとは違う。

○事務局 それは多分、出生届に来た人たちには、もれなく情報は行っていると思います。

○山岸委員 そうですね。それとお金が出るということ。

○事務局 そうですね、ほぼほぼ生まれているぐらいの人数ですからね。

○事務局 高いですよ。

○事務局 今、大体800を切っているの。たしか、平成最後は生まれた子供の数が770人じゃなかったかな。それぐらいなので、結構いい数字ではありますね。

あとは、いつも課題のフッ素です。

○坂巻委員 これは、施設の考え方ですよ。あとは、始めてからそろそろ指標が出てくると思うので、効果があれば。

○山岸委員 お子さんたちに。

○坂巻委員 小学校は東小でしたか。結構あるの。

○事務局 小学校のほうでは、頑張っって広げていきたいというところまでのお返事はもらったんです。

あとは、アンケートをとっている中では、何で小学校になるとやめちゃうのという意見が非常に多くて、せっかくやってきたことが台無しだよねというのも、確かに意見としてはたくさんもらっているの、ここの意見も附帯としてつけて、小学校さんのほうでは頑張っって拡大してほしいというお願いはしています。

東小は学年を若干ずつ広げているので、もうそろそろ、効果がどれくらいなのかというのは、はかってもいい時期ではありますよね。

○林委員長 まもなく時間が参ります。全体をやっていくのは難しいので、次回以降というこ

とになりますけれども、今のところは、総合戦略の基本的方向1というところを、私、忘れてしまうとあれなものですから、現時点で有識者の評価というあたりは確定した上で、きょうのところは中断させていただければと思いますけれども、皆さんのご意見といたしまして、いかがでしょうか。1、2、3という、この中で。

ただ、達成状況のほうは、毎回言う話になりますけれども、遅延と達成という評価の書き方が難しいねというところは、やはり課題としてあります。

○山下委員 いっぱい事業があって、それぞれ達成とか遅延とかとあるじゃないですか。全体の何パーセントが達成だったら進捗が順調だとか、そういうような基準はないんですか。

○事務局 明確にはしていません。

○山下委員 何かそういうのがあったほうがよくないですか。

○事務局 数字だけではなかなかはかれないものもあるので、そこを明確にはしていませんが。アウトプットだけの、総量を目指していくというものだけであればいいのですが、このグループに審議していただいているのが、これから後ろにも出てくるんですが、結構、子供のいじめであったり、なかなか指標ではかれないものが非常に多いです。

○山下委員 目的とはするけれども、我々のやっていることだけでは、解決がつかないようなことがいっぱいあるということですね。

○事務局 そうなんです。あとは、自治会の加入率であったりとか、市のほうで働きかけをしても、地域の実情上伸びていかないとか、そういうものもあるので、そういうところでは明確にはしていませんね。

○山下委員 明確にはしていませんけれども、ただ、みんな達成されていけば順調なんだろうし、みんな遅延とかだったら順調とは言えないとなるでしょう。

○事務局 そうですね。なので、割合的にいくと、大体、ほぼほぼ順調というところにいつもおさまっていくんですが。あとは、例えば3つ項目があったうちの2つが遅延だと、やむなく、「順調とはいえない」に行っているようなイメージですかね。

○山下委員 総合計画の評価って、今、私が言ったような形なんです。要するに個別の指標が一つの施策の中でいくつかあって、どれだけ達成するかの割合を大体決める。客観的にそれしかないんです。今の話だと、そういう基準は決めていないとすると、説明書きが必要になってくるのかもしれないですね。

○事務局 そうですね。なので、「ほぼ順調」とはいつでも、こういうところがまだまだ足りないのではないかとか、そういう意見については、後ほど、さっきの交付金にもありましたけ

れども、有識者からの意見ということで、附帯意見としてつけます。14ページですね。

○林委員長 14ページのところに何かそういう図式があって、全部順調だけれど何か意見がついたもの、そういうのもあるんですね。指標上は確かに順調なんだけれども、まち・ひと・しごとの創生という目標から見たときには、やっぱりまだまだなので、もう少し大きい目標を達成する方向に何とかならないのかみたいな趣旨の話とかはなくてはならないものですから。

○事務局 ただ、附帯意見とは別に、基準を設けていただいてもいいわけですよ。

○事務局 そうすると、多分、総数の割合になりますね。

○事務局 ここについては具体的につけたほうがいいということであれば、もう一つのチームと合わせていただいてやるというもの。

○山下委員 ある程度の基準、そんなに絶対的なものではないんですけども、何パーセントとか、難しいけれども。それを変える場合には、何か説明が必要だということもあっていいかなと。それはそうしてほしいという話ではないですけども、何かそういう基準があるのかなと思って聞きました。

○事務局 確かに、今まで感覚的なものであったり、大体「ほぼ順調」になっていたの。

○山下委員 ウェイトも違うからね。それぞれが同じウェイトなわけではないから。

○事務局 今後も、総合戦略が続いていく中ですので、そういった基準を設けてもいいのかなと思います。

○山下委員 そうですね。

○事務局 次の見直しのときは、そういうのがあってもいいかもしれないですね。

○山下委員 その基準の上でいけば、こうですと。ただ、変える場合には、これは順調ではないんだけれども、実はこうなんだということで合理的な説明がつくのであれば、それはそれでいいのかなという気がします。結局、そういった基準がないと、全部説明が必要になってしまうかもしれません。

○事務局 そうですね。1個ずつの達成状況については、数字的に機械的に、達成しているかどうかというのはそのために出させていただいています。一つ一つは、機械的に5年で割った達成状況というところですね。

○事務局 「順調」、「ほぼ順調」、「順調とはいえない」は機械的に決定して、その上で意見をいただくということも、確かにいいのかなと思います。

○山下委員 変更したければ変更できるという形にしておいたほうが、やりやすいと思います。

これだと一応8つあって、5つ達成ですよ。順調という形が基本であって、その基準を

どこに設けるか、それでいいですかという話になりますよね。

○**林委員長** そうすると、「順調とはいえない」というのは、半分以下という形になるんですね。

○**事務局** 半分以下はやっぱり……。

○**林委員長** 半分以下が3という形ですかね。

○**事務局** 8割以上が達成していれば……。

○**山下委員** それでは、半分以上、過半数で「ほぼ順調」。過半数というか、2分の1以上でもいいような気がするんだけどね。それを下回ったら、やっぱり難しいのかな。順調だといった場合、それを7割にするか8割にするかというのは、そこは決めですね。

○**事務局** そうですね。全体的に。

○**山下委員** 指標の数にもよりますね。3つしかなかったとしたら。

○**事務局** なので、一番最後のところは、多分ことしも「順調とはいえない」という判断をいただくことになるかなと思っているんですが。一番最後のやつは、5つのうち3つが遅延なんです。

○**林委員長** 地域コミュニティの活性化ですか。そのあたりがたしかそうですね。

○**事務局** そうですね、去年もここは「順調とはいえない」ということでいただいています。その前もだったかな。

○**山下委員** 5個のうち4つが遅延なんですね。違うのか。

○**事務局** 5のうち3ですね。一番最後のページ、全部遅延なので。

○**山下委員** 何ページですか。

○**事務局** 一番最後の17、18ページです。

○**林委員長** ここのところがいつも大体遅延で、成績が悪くなっている。

○**事務局** なかなか、難しいところではあります。

○**林委員長** 15ページの親子関係とか、16ページあたりの遅延が結構多いんです。

中身を見ると、何回も見ている50番の事業みたいなところだと、1番だったか何番だったか忘れましたが、国の制度がやっていないところをやるというのがあるので、そうすると、その母体自体が変わると全部ほかの事業も変わって、目標値自体が変わったりとか、逆になくなって国に取り込まれたから、サービスを提供していないわけじゃないけど指標が低下するみたいな、変な事業があるんですよね。

国の本体、我孫子市独自でやっているものを引き込まれたって言うと、残った事業だけで

カウントしていくと指標として難しいので。

○事務局 指標の立て方も、かなり難しいなと思いますけれども。

○林委員長 あとは、大体何割くらいと決めておくのも……。毎回これどうしようかと悩みますものね。定性的なところとかばかり考えて。

○事務局 そうですね。なので、きょうはここで一回とめるので、次回は11月を想定していたのですが、ちょっとそれだとあまりにも長くなってしまいますので、できたら、8月の後半か9月に一度、さっき提案があった施設見学も含めてできるとありがたいかと思うのですが。

そのときまでに評価の基準というのも事務局のほうで考えさせていただくと、あとはじゃぶじゃぶ池も、もうピークは越えていると思うので、皆さんに状況をお伝えできるかなと思います。もしかしたら今年度、場合によっては回数が増えてしまう可能性もあるのですが、なるべくコンパクトにはいきたいと思いますので。あまり時間をあけてしまうと、また、こちらの評価が最終的に報告できないので、申しわけないのですが、会場の都合もあるので、8月の頭か9月の頭で、また皆さんに出欠確認をさせていただきたいと思います。

新しい総合戦略のほうは、国がいいよと言ってくれれば、今進めている総合計画の中に組み入れていくので、延ばしてもいいよと言った場合には、今やっているものを基準に2年延ばすつもりをしています。内容がまだまだ全然達成できていないものばかりなので、これを大幅に変えるつもりはありませんので、これをさらに2年延ばす。でも、もし新しくつくりなさいといった場合にも、基本、こちらの内容がベースになると思いますので、ここにプラスするものがあるのかどうかというところだと思います。イメージ的には、皆さんにすごく莫大な事務量が増えるということは想定していませんので、できる限り、事務局のほうで取りまとめたものを皆さんにご提供したいと思います。

○山下委員 新しくつくるといっても、総量の部分とかその辺が変わるといえる話ですね。あえて言えば、事業は変わらないということですね。そんなにいくつもどんどん出てくるわけではないものね。

○事務局 そうですね。新しく大きなことを何かやるというのであれば入れていくんですけども、そこまで新しい動きがあるのかというと、現時点ではないので。

今、かなり網羅をしている総合戦略になっているので、交付金をもらう上では、今の内容を変えなくてもほとんどいけるというような状況ではあります。

まだまだ、水の館を中心に交流人口の拡大が伸びないので、そこは頑張らなくてはいけないという大きな課題があります。そこで何か展開をする場合にも、今の総合戦略で中身は十

分読み込めるようにはなっています。ただ、ちょっと意見交換をして。

多分、ほかの近隣市だと、一緒につくっているところが多いですよ。我々もちょっと聞きましたら、近隣の方は、結構、一緒につくるつもりでという話はしています。

では、きょうはこれで一旦終わりですかね。

○林委員長 では、中途半端になってしまいましたけれども、今日はこれで終了とさせていただきますと思います。